

【事例】武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）【0：要旨】

武蔵野市では、地区の再開発事業の一環として、払い下げられた省庁跡地を活用。各種機能を融合させ、子どもたちからお年寄りまでが交流する「場」として地域社会の活性化を求める新しいタイプの公共施設を目指した。運営にあたっては**指定管理者制度**を活用。

背景・目的

- 既存図書館の立地・規模等に対する市民要望から公共施設の移転拡充を検討
- 当該地域のまちづくり・再開発の一環として、市民の拠点になりうる施設の設置を検討。その中、鉄道駅近辺の省庁跡地が払い下げられ、施設建設に相応しい立地の土地を確保することに成功
- 機能の複合化にあたり、各機能における庁内の担当部署は縦割りだが、**施設を一体的に運営するため、指定管理者制度を導入しワンストップな運営を実現**

施設の概要



（公共機能）
管理運営は市の外郭団体である公益財団法人**武蔵野文化生涯学習事業団**が実施。

- ◆ 図書館
- ◆ 生涯学習支援機能
（会議室、スタディコーナー等）
- ◆ 市民活動支援機能
（ワークラウンジ、プリント工房等）
- ◆ 青少年活動支援機能
（サウンドスタジオ等、青少年向けフロア）

（民間付帯事業）

- ◆ カフェ
（施設利用者以外も利用可能）

スケジュール

- H12 「新公共施設基本計画策定委員会」を設置
- H15 武蔵境新公共施設設計プロポーザルを実施
- H22 指定管理者を決定（公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団）*
- H23 開業

成果・効果

（財務面）

- ◆ 利用者数の増加 年間1,509,979人（H24）→1,923,162人（H30）
- ◆ 施設稼働率の向上 フォーラム（会議室）：47.9%（H24）→61.1%（H30）
（サービス面）※本施設開館前、武蔵境地区にあった西部図書館との比較
- ◆ 開館時間の拡大 午後7時→午後10時
- ◆ 蔵書冊数の増加 移転前：88,564冊、雑誌タイトル204（H22）
→プレイス：149,076冊、雑誌タイトル599（H23）
- ◆ 貸出冊数の増加 移転前：325,534冊（H22）
→653,049冊（H23）→1,001,920冊（R3）

*R4年度よりこの名称

【事例】武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）【1：機能】



施設機能（公益）

管理運営は市の外郭団体である公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団が実施。「多世代が滞在・交流する居場所」としての施設運営を実現すべく、以下4つの機能を有する。

- ◆ 図書館
若者向けの雑誌を充実させるなど、多世代に向けた資料を提供。
- ◆ 生涯学習支援機能
市民向けのスタディコーナー・ワーキングデスクの提供や、講座イベントの企画・運営等を実施。
- ◆ 市民活動支援機能
会議室の貸し出しや、登録された市民団体の活動支援（印刷機材の提供等）を実施。
- ◆ 青少年活動支援機能
青少年が自由に使用できるラウンジや、ダンス・楽器演奏等が可能なスタジオを提供。



（ワーキングデスク）



（青少年向けラウンジ）

施設機能（民間収益）

敷地内にはカフェを併設。運営事業者は公募により決定。指定管理者である武蔵野文化生涯学習事業団から再委託する形で運営。大規模な全国チェーンではなく、**地場の事業者による運営**のため、施設利用者のニーズに合った運営を可能としている。

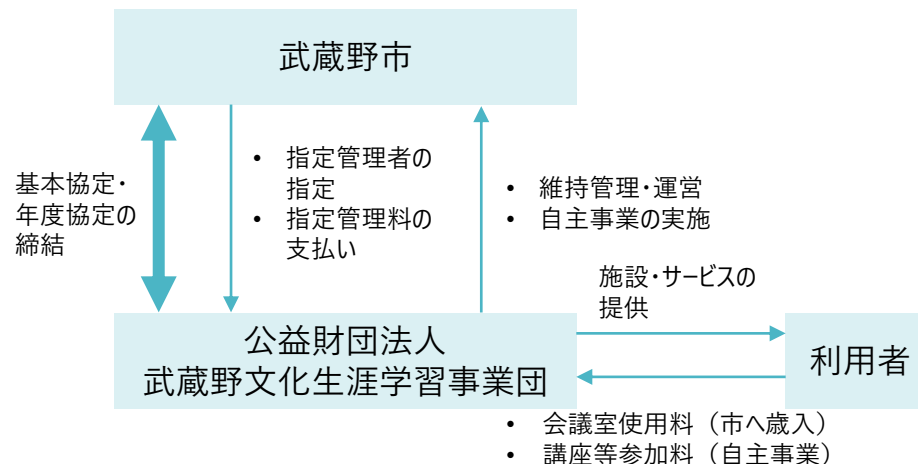


【事例】武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）【2：PPP導入効果】

事業データ

事業手法	老朽化した図書館を移転し、新たに市民活動支援機能等を加えて複合化
事業内容	管理運営は指定管理者を指定
事業費	約45億円
事業期間	(指定管理期間) 第1期：H22～26年度 第2期以降は5年度単位にて契約

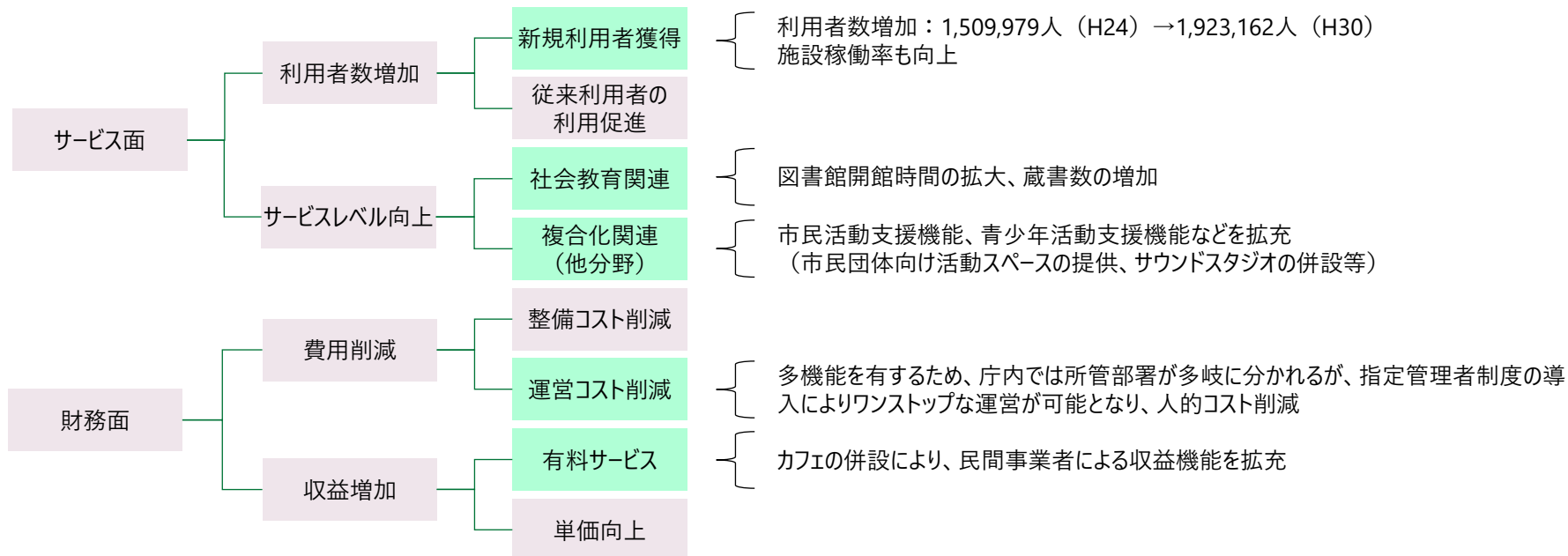
事業スキーム



導入効果

緑色：本事例に該当

灰色：本事例に非該当



【事例】武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）【3：実現に至った経緯・工夫】

整備経緯

- 武蔵野市では、図書館の立地場所、規模、開館時間等に対する市民要望が寄せられていた。
- **地区の再開発事業の一環**として、払い下げられた省庁跡地を活用。各種機能を融合させ、子どもたちからお年寄りまでが交流する「場」として地域社会の活性化を求める、新しいタイプの公共施設を目指した。
- 運営にあたっては**指定管理者制度**を活用。

整備課題・対応

整備前の課題

複合化にあたっての運営人材の不足
(各機能に係る庁内の部署は縦割り)

周辺地区のまちづくり・再開発と合わせた設計・整備が必要

利用者数減少
(利用者層が周辺住民のみに限られていた)

対応策

- 指定管理者制度導入によるワンストップでの運営体制づくり
- 指定管理者と市の間での人材交流による、担い手の育成

- 企画時は、首長部局である企画調整課が計画を推進。計画決定後、教育委員会に主導を移管

- 新規利用者層の巻き込み
(市内周辺地域、市外沿線地域等)
- 上記に向けたターゲティング
(貸出カードがなくても館内利用可能)

事業経過

- H10 食糧庁跡地取得が完了
- H11 「武蔵野市中心市街地活性化基本計画」を作成
- H12 「新公共施設基本計画策定委員会」を設置
- H13 「市第三期長期計画第二次調整計画」において、「武蔵境のまちづくりの推進」の一環として施設を位置づけ
- H15 武蔵境新公共施設設計プロポーザルを実施
- H19 「武蔵野プレイス（仮称）管理運営基本方針」を策定
- H21 着工
「ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス管理運営指針」を策定
- H23 開業

体制図

